

平成七年度論文題目

- 荒金 治 武者小路實篤論
 有本 誠 宮沢賢治の幸福観
 伊藤 宏 江戸川乱歩の世界
 井上 智範 萩原朔太郎論「詩の原理」に見る詩観
 小野 邦大 川端茅舎論「茅舎浄土の世界」
 小野 真愛 与謝野晶子論 鉄幹との出会いと情熱について
 海江田智美 杉田久女論「久女と虚子」
 狩俣 正樹 「発心集」の研究
 川上 嘉一 芥川龍之介論「悲劇の人生」と「自裁」について
 金 恵 妍 川端康成論
 金原 崇 種田山頭火論「庵の生活」
 熊野賢一郎 井伏鱒二論「黒い雨」をとおして
 黒田 圭志 福永武彦「死の島」論
 幸野 恵 古代日本人の宗教観―古事記神話を通して―
 呉 隆 斌 島崎藤村論―心境小説から見た作家の青春―
 塩手 努 宮沢賢治論―死の観念について―
 重森 俊裕 高濱虚子論―長い修業時代について―
 白壁 由美 宮沢賢治論―「よだかの星」は何を表わすか―
 宋 垠 妊 夏目漱石の女性像
 武田 恭二 坂口安吾論―人間らしく生きるという事―

- 田仲 郁子 高村光太郎論―詩から見る光太郎の人生―
 谷口 淳 若山牧水論―故郷の自然と寂しさ―
 妻木 亮 方言比較論―標準語・関西弁・和歌山方言の語彙比較―
 鶴長 尚司 石川啄木論―その苦難の人生と歌について―
 鶴長 隆盛 鹿児島県出水郡長島地方の方言研究
 手島 光裕 室生犀星論―犀星詩の二面性について―
 中 篤 英貴 中原中也論
 中村 千穂 金子みすず論―みすずの童謡にみる二面性―
 永田 顕慈 芥川龍之介論
 仁科 まみ 鹿児島方言の国語学的研究
 蜷川 隆文 太宰治論―人間不信の人生―
 野中孝一郎 方言国語史研究―「をり」と「ある」を中心に―
 橋倉 昭子 宮沢賢治論―賢治における仏教思想について―
 橋本 玲子 樋口一葉―たけくらべ論
 羽藤 緑 基本語彙の史的研究―「よし」・「あし」を中心に―
 福嶋 城史 大江健三郎論
 福永 裕介 待遇表現の史的研究―「たまふ」攷
 藤田 祐浩 志賀直哉論―死生観の変遷について―
 藤山 弘之 方言国語史―方言語彙の史的変遷―
 古野 伸一 類義語の国語学的研究―「やむごとなし」と「おもおもし」を中心に―
 白 哲 敗 芥川龍之介論
 松本 卓弘 徒然草考

三重野 修 上代における「見ゆ」の構文機能―終止形接続から連体形接続へ―

宮崎 良尚 類義語の国語学的研究―アカラサマナリ・カリソメナリ・アキラカナリを中心に―

村上 利幸 大分方言の国語学的研究

村上 伸子 古代接続法の国語学的研究―接続詞「あるは」「さるは」を中心に―

目代 雄一 副詞の史的研究―「さらに」を中心に―

山口 貴子 類義語の国語学的研究―「サハル」「フル」を中心に―

山下 正明 宮沢賢治論

渡邊 健文 類義語の国語学的研究―「かしこし」を中心に―

和田聡一郎 梶井基次郎論―意識の世界・病について―

△行事▽

◇第二次オリエンテーション

五月十四日（火曜日）新入生を中心としたオリエンテーションを実施した。住吉浜で歓声をあげた後、新入生歓迎コンパをおこなった。

◇欧州研修旅行

六月二十八日～七月七日 安東・荒金・森脇、三先生の引率でイギリス・フランス・イタリアを訪れた。学生三十余名参加。

◇秋期国文学会

十一月二十日（水曜日）午後一時より、三号館ホール
発表 「可能表現の史的変遷について」
糸永百恵氏（国文学科四年）

「室町時代における引用形式の一考察」

城戸玲子氏（国文学科四年）

鼎談 欧州研修の成果 安東大隆先生・学生代表